

ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R2. 8. 31

【3つのゼロを実現する！】

校長 宮地敏彦

短い夏休みを終え、児童達が元気に登校する姿を見たときには、安堵と同時に保護者の皆さんへの感謝の思いをもちました。コロナと熱中症、水辺の事故…、今夏の脅威を考えると、元気に毎日登校してくれていることに感慨を覚えます。

さて、夏休み明けの8月17日(月)、全校児童に『“3つのゼロ”を実現しよう！』という話をしました。

一つ目のゼロは、「コロナゼロ」です。今後も引き続きこの取り組みを通して、自分とまわりの人を大切にする思いやりの心を育むことができます。

二つ目のゼロは、「いじめゼロ」です。いじめはコロナと多くの共通点があります。



<日傘で下校する児童達>

<共通点①>、それはコロナが、誰もがうつし、うつされる恐れがあるのと同じように、いじめも、誰もがしたりされたりする可能性がある。

<共通点②> それはコロナと同じで、被害が軽いときもあるけれど、家族を巻き込んだり、何年も後遺症が残ったり、命まで奪うことさえある。

<共通点③> 陰口や悪口で人の心を傷つけたり、責めたり、差別したり、のけ者にしたりして人を悲しませたりする。

今日まで「コロナゼロ」で頑張ってきている共栄小のみんななら、必ずいじめも声をかけ合っ

てゼロにすることができます。
3つ目のゼロは、「ゴミゼロ」です。今年から共栄小学校では「もくもく掃除」のレベルアップと伝統化に向けて取り組んでいます。完全無言でチームワークよく掃除できるようになると「掃除が楽しい!」と感じられるようになります。そのレベルで掃除ができるようになると、自分の掃除場所以外のゴミも目にとまり、自ずとゴミをひとつまみする人になります。それをめざしてほしいのです。そして、いつも廊下や教室にゴミのない学校を実現しましょう。

「コロナゼロ いじめゼロ ゴミゼロ 共栄小」 (3ゼロ標語)

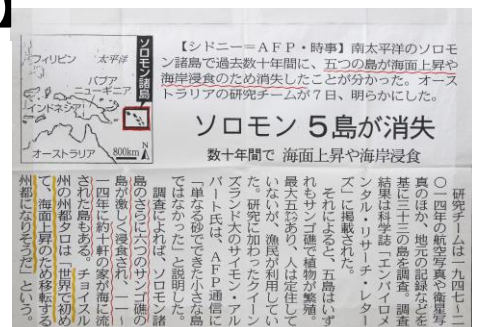
【“共に生きる”とは…? ～ソロモン諸島体験記⑥～】

猛暑の程度や猛暑日の多さも年ごとに増し、命の危険を感じる夏が今後も恒常化しそうな気配です。気温の上昇は、海水面の上昇とともに海水温の上昇にもつながり、台風の強さにも影響を与えることとなります。熱中症から子どもたちを守り切ることと入れかわりに、秋には台風や大雨にも命の危険を感じる日々を迎えることになりそうです。こうした気象災害(被害)の原因として、地球温暖化があることは知られています。

ソロモンでは、海水の浸食によって、浜辺のヤシの木の根が露出したり、村が水に浸かっているところがあります。また、

ソロモンには、キリバス共和国の人がたくさん住んでいます。キリバス人の生徒に聞くと『村が沈むから移住してきた。』と言いました。途上国の暮らしは質素で、電気・ガス・自動車などなく、自然と共存し、その恵みに感謝して生きている人がほとんどです。その生活が温暖化を助長することはありません。ではなぜふるさとが沈んでしまうのか!?

共栄小の子達には、日本を含む先進国・大国の発展と豊かな暮らしの陰で、「命の危険」「ふるさと消失の危機」などに長い年月直面し続けている人々のいることを思うことのできる人になってほしいと願います。それが、いろいろな状況にある人々と“共に生きる”こととなります。



<島の消失を報じる中日新聞>